様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	宇部工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	機械工学科		0	0	7	7	7	
	電気工学科				7	7	7	
	制御情報工学科				7	7	7	
	物質工学科				7	7	7	
	経営情報学科				7	7	7	
	生産システム工学専攻		4	0	4	8	7	
	物質工学専攻				4	8	7	
	経営情報工学専攻				4	8	7	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

機械工学科：https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=36&department_id=11&year=2025&lang=ja
電気工学科：https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=36&department_id=12&year=2025&lang=ja
制御情報工学科：https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=36&department_id=13&year=2025&lang=ja
物質工学科：https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=36&department_id=14&year=2025&lang=ja
経営情報学科：https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=36&department_id=15&year=2025&lang=ja

生産システム工学専攻：https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=36&department_id=21&year=2025&lang=ja 物質工学専攻：https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=36&department_id=22&year=2025&lang=ja 経営情報工学専攻：https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=36&department_id=23&year=2025&lang=ja

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	宇部工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表
https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/yakuin.pdf
（https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01）

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～2026年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理工学府長・研究院長	2024年4月1日～2026年3月31日	国際交流･海外展開情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月1日～2026年3月31日	男女共同参画
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宇部工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 各年度の 12～１月に、常勤教員および非常勤教員に対してシラバスの作成を依頼する。シラバスは Web シラバスとして電子的に管理され、科目基礎情報、到達目標、到達目標に対応したルーブリック、教育方法（科目の概要、授業の進め方と授業内容・方法、注意点から構成される）、授業計画（各回の授業内容および回ごとの到達目標を含む）および評価割合から構成される。最終的に教務関係教職員のチェックを経て、Web 上で当該年度４月初旬に公表される。 このシラバスは、在学生はもとより入学志願者、保護者をはじめとする誰もが閲覧可能である。
授業計画書の公表方法：http://www2.ube-k.ac.jp/gakuseika/kyoumu/syllabus/2019/index.htm
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） カリキュラム・ポリシーに定める成績評価方法に関する方針に沿って、シラバスに記載された評価割合に基づき授業科目の評価を行う。卒業研究（専攻科は特別研究に読み替える。）、実習・演習系科目を除く科目においては、定期試験、レポート、小テストの評価をもとに厳正かつ適正な評価を行っており、定期試験の比重を大きく設定する。英語や国語では発表態度や発表内容を評価に含む場合もある。卒業研究ではレポート、実験データ・資料、卒業論文、卒業研究発表会および発表予稿集に基づいて厳正かつ適正な評価を行う。また、実習・演習系科目ではレポート、発表および実習態度に基づき、厳正かつ適正な評価を行う。 以上の定期試験やレポート、卒業論文等による評価を総合し、100 点法で点数化した上で、「宇部工業高等専門学校教務規則」または「宇部工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」に基づき、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可の標語を適用する。学年成績が 60 点未満、または各科目において欠課時数が年間授業時数の３分の１を超える科目を不合格とし未修得とする。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

（本科）

履修した科目の平均点を成績評価における客観的指標とする。前期末では、第１学期ならび第２学期に開講され、第２学期末に成績が提出されている科目を対象とする。また、後期末では第３学期、第４学期および通年開講され、第４学期末に成績が提出される科目を対象とする。

前期末、後期末のそれぞれについて、学生の評価点の平均を順位付けのための指標とし、小数点以下第３位までを算出する。

以上の指標を用いて、各学科・各学年において値の大きい者を上位とし、また値が同一の場合は履修科目数の多い者を上位とする。なお、休学者は順位決定の対象外とする。

（専攻科）

成績評価における客観的指標は、後述する計算式により前期末および後期末に算出するものとし、前期ならびに後期に履修した科目を対象とする。前期末では、第１学期および第２学期に開講され、第２学期末に成績が提出されている科目を対象とする。後期末では、第３学期、第４学期および通年開講され、第４学期末に成績が提出されている科目を対象とする。

前期履修科目および後期履修科目（通年開講科目を含む）それぞれについて、当該学生の評価点を以下の計算式に代入して得られる単位数重み付け平均点 $\overline{s}$ を順位付けのためのスコアとする。評価点の平均は小数点以下第３位まで算出する。

$$\overline{s} = \frac{\sum_{i=1}^{n} c_i \times s_i}{\sum_{i=1}^{n} c_i}$$

n：成績が提出された科目数、c_i：科目 i の単位数、s_i：科目 i の評価点

各学年において、上記のスコアの値の大きい者を上位とする。スコアが同点の場合、科目数の多い者を上位とする。なお、休学者は順位決定の対象外とする。

上記にて設定した算出方法により、添付資料のとおり昨年度の成績分布状況を把握している。

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.ube-k.ac.jp/for-parents/shinkyuhu/

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
（本科）
・卒業の認定に関する方針の具体的な内容
　各学科の知識と技術を有する実践的技術者／ビジネスパーソンを育成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。
１．実践的技術者／ビジネスパーソンに必要な科学的基礎知識
２．工学的／ビジネス分野の専門基盤知識
３．社会実装に応用・実践できる力
４．自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力
５．リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力
・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況
　あらかじめ定められた一般科目、専門科目の内訳にしたがって 167 単位以上修得した者について卒業を認定している。
　卒業認定会議を開催し、その結果に基づき校長が卒業を認定している。
（専攻科）
・修了の認定に関する方針の具体的な内容
　各専攻の高度な知識と技術を有する実践的技術者／ビジネスパーソンを育成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。
１．実践的技術者／ビジネスパーソンに必要な高度な科学的知識
２．工学的／ビジネス分野の専門先端技術・知識
３．“もの”をデザインできる力
４．自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力
５．リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力
・修了の認定に関する方針の適切な実施状況
　あらかじめ定められた一般科目、専門基礎科目、専門科目の内訳にしたがって 62 単位以上修得した者について修了を認定している。
　修了認定会議を開催し、その結果に基づき校長が修了を認定している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	宇部工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf （https://www.kosen-k.go.jp/release/independence）
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf （https://www.kosen-k.go.jp/release/independence）
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jigyouhoukoku.pdf （https://www.kosen-k.go.jp/release/independence）
監事による監査報告（書）	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jikotennkennhyouka.pdf （https://www.kosen-k.go.jp/release/independence）

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画　対象年度：令和７年度）
公表方法：https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf （https://www.kosen-k.go.jp/release/independence）
中長期計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画　対象年度：令和６年度から令和 10 年度）
公表方法：https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf （https://www.kosen-k.go.jp/release/independence）

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/disclosure-3/

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/20210802kikanhyouka/

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　機械工学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/for-students/syllabus-3/）（令和７年度学生便覧　学則第７条の２　P19）
（概要） 機械工学科では、工業製品の研究開発、設計、生産技術などに係わる実践的機械技術者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214hondhip/）
（概要）【様式第２号の３（３）４再掲）】 ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 各学科の知識と技術を有する実践的技術者を育成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。 １．実践的技術者に必要な科学的基礎知識 ２．工学的専門基盤知識 ３．社会実装に応用・実践できる力 ４．自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力 ５．リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 あらかじめ定められた一般科目、専門科目の内訳にしたがって 167 単位以上修得した者について卒業を認定している。 卒業認定会議を開催し、その結果に基づき校長が卒業を認定している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214honkari/）
（概要） 機械工学科では、専門基礎に関わる能力に加え、電子情報技術の進展にも対応でき、かつ自主性・問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する実践的技術者を育成するために、一般科目と専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。 １．実践的技術者に必要な科学的基礎知識の修得 ２．工学的専門基盤知識の修得 ３．社会実装に応用できる能力の習得 ４．論理的説明力、周囲との協調性および自ら学ぶ力の習得 ５．リベラルアーツ、国際的素養の習得 上記の教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214honado/）

（概要）
宇部工業高等専門学校は、Be human, be tough and be challenge-seeking.を教育理念に掲げ、創造力をそなえ、「もの」づくりを得意とする人間性豊かな人材の育成を目指している。
求める学生像
・総合的な基礎学力を身につけている人（知識・技能）
・論理的に考え、自分の意見を分かりやすく伝えることができる人（思考力・判断力・表現力）
・目標に向かって、主体的な学びを継続できる人（主体性）
・多様な考え方を理解して、周囲とともに活動できる人（多様性・協働性）
・将来、専門性を活かした仕事に挑戦したい人（意欲・適性）
なお、推薦選抜について、令和４年度に実施した推薦選抜での評価と入学後の成績との相関性の調査結果を踏まえ、令和６年度実施の推薦選抜の定員を増員した。令和７年度実施の推薦選抜から学校長の推薦によらない自己推薦とし、加えて、評価項目の変更を行うこととしている。
また、帰国生徒特別選抜は推薦選抜と同日に実施し面接及び調査書による選抜方法としていたが、令和７年度実施の帰国生徒特別選抜から学力検査選抜と同日に実施し学力検査の成績、調査書及び面接による選抜方法に変更することとしている。

学部等名　電気工学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/for-students/syllabus-3/）（令和７年度学生便覧　学則第７条の２　P19）

（概要）
電気工学科では、電力、電子・制御、情報・通信などの分野の実践的電気技術者を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214hondhip/）

（概要）【様式第２号の３（３）４再掲）】
・卒業の認定に関する方針の具体的な内容
各学科の知識と技術を有する実践的技術者を育成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。
１．実践的技術者に必要な科学的基礎知識
２．工学的専門基盤知識
３．社会実装に応用・実践できる力
４．自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力
５．リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力
・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況
あらかじめ定められた一般科目、専門科目の内訳にしたがって 167 単位以上修得した者について卒業を認定している。
卒業認定会議を開催し、その結果に基づき校長が卒業を認定している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214honkari/）

（概要）
電気工学科では、専門基礎に関わる知識に加え、変化の激しい情報・通信技術や電子デバイスの分野にも対応でき、かつ自主性・問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する実践的技術者を育成するために、一般科目と専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。
１．実践的技術者に必要な科学的基礎知識の修得
２．工学的専門基盤知識の修得
３．社会実装に応用できる能力の習得

４．論理的説明力、周囲との協調性および自ら学ぶ力の習得 ５．リベラルアーツ、国際的素養の習得 　上記の教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214honado/）
（概要） 　宇部工業高等専門学校は、Be human, be tough and be challenge-seeking.を教育理念に掲げ、創造力をそなえ、「もの」づくりを得意とする人間性豊かな人材の育成を目指している。 求める学生像 ・総合的な基礎学力を身につけている人（知識・技能） ・論理的に考え、自分の意見を分かりやすく伝えることができる人（思考力・判断力・表現力） ・目標に向かって、主体的な学びを継続できる人（主体性） ・多様な考え方を理解して、周囲とともに活動できる人（多様性・協働性） ・将来、専門性を活かした仕事に挑戦したい人（意欲・適性） 　なお、推薦選抜について、令和４年度に実施した推薦選抜での評価と入学後の成績との相関性の調査結果を踏まえ、令和６年度実施の推薦選抜の定員を増員した。令和７年度実施の推薦選抜から学校長の推薦によらない自己推薦とし、加えて、評価項目の変更を行うこととしている。 　また、帰国生徒特別選抜は推薦選抜と同日に実施し面接及び調査書による選抜方法としていたが、令和７年度実施の帰国生徒特別選抜から学力検査選抜と同日に実施し学力検査の成績、調査書及び面接による選抜方法に変更することとしている。

学部等名　制御情報工学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/for-students/syllabus-3/）（令和７年度学生便覧　学則第７条の２　P19）
（概要） 　制御情報工学科では、情報通信技術を駆使し、ロボットなどの動きを制御することができる実践的情報技術者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214hondhip/）
（概要）【様式第２号の３（３）４再掲）】 ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 　各学科の知識と技術を有する実践的技術者を育成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。 １．実践的技術者に必要な科学的基礎知識 ２．工学的専門基盤知識 ３．社会実装に応用・実践できる力 ４．自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力 ５．リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 　あらかじめ定められた一般科目、専門科目の内訳にしたがって 167 単位以上修得した者について卒業を認定している。 　卒業認定会議を開催し、その結果に基づき校長が卒業を認定している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214honkari/）
（概要） 　制御情報工学科では、第１学年から第５学年まで一貫した「組込みシステム」に関する

講義・実験・実習に取り組む。これらの学修を通して身につけた情報系・システム系に関する知識・技術に加え、自主性・問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する実践的技術者を育成するために、一般科目と専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。 １．実践的技術者に必要な科学的基礎知識の修得 ２．工学的専門基盤知識の修得 ３．社会実装に応用できる能力の習得 ４．論理的説明力、周囲との協調性および自ら学ぶ力の習得 ５．リベラルアーツ、国際的素養の習得 上記の教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214honado/）
（概要） 宇部工業高等専門学校は、Be human, be tough and be challenge-seeking.を教育理念に掲げ、創造力をそなえ、「もの」づくりを得意とする人間性豊かな人材の育成を目指している。 求める学生像 ・総合的な基礎学力を身につけている人（知識・技能） ・論理的に考え、自分の意見を分かりやすく伝えることができる人（思考力・判断力・表現力） ・目標に向かって、主体的な学びを継続できる人（主体性） ・多様な考え方を理解して、周囲とともに活動できる人（多様性・協働性） ・将来、専門性を活かした仕事に挑戦したい人（意欲・適性） なお、推薦選抜について、令和４年度に実施した推薦選抜での評価と入学後の成績との相関性の調査結果を踏まえ、令和６年度実施の推薦選抜の定員を増員した。令和７年度実施の推薦選抜から学校長の推薦によらない自己推薦とし、加えて、評価項目の変更を行うこととしている。 また、帰国生徒特別選抜は推薦選抜と同日に実施し面接及び調査書による選抜方法としていたが、令和７年度実施の帰国生徒特別選抜から学力検査選抜と同日に実施し学力検査の成績、調査書及び面接による選抜方法に変更することとしている。

学部等名　物質工学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/for-students/syllabus-3/）（令和７年度学生便覧　学則第７条の２　P19）
（概要） 物質工学科では、化学工業又は生物工業における開発、生産などに係わる実践的技術者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214hondhip/）
（概要）【様式第２号の３（３）４再掲）】 ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 各学科の知識と技術を有する実践的技術者を育成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。 １．実践的技術者に必要な科学的基礎知識 ２．工学的専門基盤知識 ３．社会実装に応用・実践できる力 ４．自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力 ５．リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

あらかじめ定められた一般科目、専門科目の内訳にしたがって 167 単位以上修得した者について卒業を認定している。 卒業認定会議を開催し、その結果に基づき校長が卒業を認定している。
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214honkari/)
(概要) 物質工学科では、化学と生物の二つの専門性を身につけることを目標として、低学年次から座学、実験等の本格的な専門教育が始まり、中学年次までに大学レベルの基礎知識を習得する。これらの学修を通して身につけた化学品の設計や製造、食品や医薬品の検査、環境保全に関する知識・技術に加え、自主性・問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する実践的技術者を育成するために、一般科目と専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。 1．実践的技術者に必要な科学的基礎知識の修得 2．工学的専門基盤知識の修得 3．社会実装に応用できる能力の習得 4．論理的説明力、周囲との協調性および自ら学ぶ力の習得 5．リベラルアーツ、国際的素養の習得 上記の教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価する。
入学者の受入れに関する方針(公表方法:https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214honado/)
(概要) 宇部工業高等専門学校は、Be human, be tough and be challenge-seeking.を教育理念に掲げ、創造力をそなえ、「もの」づくりを得意とする人間性豊かな人材の育成を目指している。 求める学生像 ・総合的な基礎学力を身につけている人(知識・技能) ・論理的に考え、自分の意見を分かりやすく伝えることができる人(思考力・判断力・表現力) ・目標に向かって、主体的な学びを継続できる人(主体性) ・多様な考え方を理解して、周囲とともに活動できる人(多様性・協働性) ・将来、専門性を活かした仕事に挑戦したい人(意欲・適性) なお、推薦選抜について、令和4年度に実施した推薦選抜での評価と入学後の成績との相関性の調査結果を踏まえ、令和6年度実施の推薦選抜の定員を増員した。令和7年度実施の推薦選抜から学校長の推薦によらない自己推薦とし、加えて、評価項目の変更を行うこととしている。 また、帰国生徒特別選抜は推薦選抜と同日に実施し面接及び調査書による選抜方法としていたが、令和7年度実施の帰国生徒特別選抜から学力検査選抜と同日に実施し学力検査の成績、調査書及び面接による選抜方法に変更することとしている。

学部等名　経営情報学科
教育研究上の目的(公表方法:https://www.ube-k.ac.jp/for-students/syllabus-3/) (令和7年度学生便覧　学則第7条の2　P19)
(概要) 経営情報学科では、経済社会と情報技術の発展に対応し得る実践的知識と技術を有する「経営のエンジニア」を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法:https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214hondhip/)
(概要)【様式第2号の3(3)4再掲)】 ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容

各学科の知識と技術を有するビジネスパーソンを育成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。 １．実践的なビジネスパーソンに必要な科学的基礎知識 ２．ビジネス分野の専門基盤知識 ３．社会実装に応用・実践できる力 ４．自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力 ５．リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 あらかじめ定められた一般科目、専門科目の内訳にしたがって 167 単位以上修得した者について卒業を認定している。 卒業認定会議を開催し、その結果に基づき校長が卒業を認定している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214honkari/）
（概要） 経営情報学科では、「経営」と「情報」の融合したカリキュラムにより経営に関する科学的な思考力やシステム開発技術を身につけ、かつ自主性・問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する実践的ビジネスパーソンを育成するために、一般科目と専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。 １．実践的なビジネスパーソンに必要な科学的基礎知識の修得 ２．ビジネス分野に関する専門基盤知識の修得 ３．社会実装に応用できる能力の習得 ４．論理的説明力、周囲との協調性および自ら学ぶ力の習得 ５．リベラルアーツ、国際的素養の習得 上記の教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214honado/）
（概要） 宇部工業高等専門学校は、Be human, be tough and be challenge-seeking.を教育理念に掲げ、創造力をそなえ、「もの」づくりを得意とする人間性豊かな人材の育成を目指している。 求める学生像 ・総合的な基礎学力を身につけている人（知識・技能） ・論理的に考え、自分の意見を分かりやすく伝えることができる人（思考力・判断力・表現力） ・目標に向かって、主体的な学びを継続できる人（主体性） ・多様な考え方を理解して、周囲とともに活動できる人（多様性・協働性） ・将来、専門性を活かした仕事に挑戦したい人（意欲・適性） なお、推薦選抜について、令和４年度に実施した推薦選抜での評価と入学後の成績との相関性の調査結果を踏まえ、令和６年度実施の推薦選抜の定員を増員した。令和７年度実施の推薦選抜から学校長の推薦によらない自己推薦とし、加えて、評価項目の変更を行うこととしている。 また、帰国生徒特別選抜は推薦選抜と同日に実施し面接及び調査書による選抜方法としていたが、令和７年度実施の帰国生徒特別選抜から学力検査選抜と同日に実施し学力検査の成績、調査書及び面接による選抜方法に変更することとしている。

学部等名　生産システム工学専攻
教育研究上の目的（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/for-students/syllabus-3/） （令和７年度学生便覧　専攻科の教育方針　P128）

（概要）
　生産システム工学専攻では、先端工学技術の発展に対応し得る知識を持った独創的で解析力に優れた技術者の育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214sendhip/）

（概要）【様式第２号の３（３）４再掲）】
・修了の認定に関する方針の具体的な内容
　各専攻の高度な知識と技術を有する実践的技術者を育成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。
１．実践的技術者に必要な高度な科学的知識
２．工学的専門先端技術・知識
３．“もの”をデザインできる力
４．自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力
５．リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力
・修了の認定に関する方針の適切な実施状況
　あらかじめ定められた一般科目、専門基礎科目、専門科目の内訳にしたがって 62 単位以上修得した者について修了を認定している。
　修了認定会議を開催し、その結果に基づき校長が修了を認定している。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214senkari/)

（概要）
　専攻科では、情報収集・解析・企画・立案および設計等に関する総合的能力を有し、“もの”を新たに創造できる開発型技術者・研究者・ビジネスパーソンを育成するために、専攻ごとに必要な科目を体系的に配置した教育課程を編成する。
１．実践的技術者に必要な高度な科学的知識の修得
２．工学的専門先端技術・知識の修得
３．“もの”をデザインできる力の習得
４．論理的説明力および周囲との協調性の習得
５．リベラルアーツ、国際的素養及び自ら学ぶ力の習得
　上記の教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214senado/）

（概要）
　宇部工業高等専門学校は、Be human, be tough and be challenge-seeking.を教育理念に掲げ、創造力をそなえ「もの」づくりを得意とする人間性豊かな人材の育成を目指している。
求める学生像
・工学またはビジネス分野における総合的な基礎学力を身につけている人（知識・技能）
・論理的に考え、自らの研究について分かりやすく説明できる人（思考力・判断力・表現力）
・自ら目標を設定し継続的に研究を遂行している人（主体性）
・多様な価値観を受け入れ、相互に連携して活動できる人（多様性・協働性）
・高度な専門性および複合的な知識を活かし、「もの」づくりで社会に貢献したい人（意欲・適性）
　なお、入学者の受入れに関する方針に沿った入学生の確保および適切な定員管理のため継続的な議論を実施しており、令和６年度実施の推薦選抜から出願資格の改善（令和４年度末に公表済み）を実施している。

学部等名　物質工学専攻
教育研究上の目的（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/for-students/syllabus-3/） （令和７年度学生便覧　専攻科の教育方針　P128）
（概要） 物質工学専攻では、物質変換及びエネルギー変換技術の発展に対応し得る高度な知識と技術を有する技術者の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214sendhip/）
（概要）【様式第２号の３（３）４再掲）】 ・修了の認定に関する方針の具体的な内容 各専攻の高度な知識と技術を有する実践的技術者を育成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。 １．実践的技術者に必要な高度な科学的知識 ２．工学的専門先端技術・知識 ３．“もの”をデザインできる力 ４．自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力 ５．リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力 ・修了の認定に関する方針の適切な実施状況 あらかじめ定められた一般科目、専門基礎科目、専門科目の内訳にしたがって 62 単位以上修得した者について修了を認定している。 修了認定会議を開催し、その結果に基づき校長が修了を認定している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214senkari/）
（概要） 専攻科では、情報収集・解析・企画・立案および設計等に関する総合的能力を有し、“もの”を新たに創造できる開発型技術者・研究者・ビジネスパーソンを育成するために、専攻ごとに必要な科目を体系的に配置した教育課程を編成する。 １．実践的技術者に必要な高度な科学的知識の修得 ２．工学的専門先端技術・知識の修得 ３．“もの”をデザインできる力の習得 ４．論理的説明力および周囲との協調性の習得 ５．リベラルアーツ、国際的素養及び自ら学ぶ力の習得 上記の教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214senado/）
（概要） 宇部工業高等専門学校は、Be human, be tough and be challenge-seeking.を教育理念に掲げ、創造力をそなえ「もの」づくりを得意とする人間性豊かな人材の育成を目指している。 求める学生像 ・工学またはビジネス分野における総合的な基礎学力を身につけている人（知識・技能） ・論理的に考え、自らの研究について分かりやすく説明できる人（思考力・判断力・表現力） ・自ら目標を設定し継続的に研究を遂行している人（主体性） ・多様な価値観を受け入れ、相互に連携して活動できる人（多様性・協働性） ・高度な専門性および複合的な知識を活かし、「もの」づくりで社会に貢献したい人（意欲・適性） なお、入学者の受入れに関する方針に沿った入学生の確保および適切な定員管理のため

継続的な議論を実施しており、令和６年度実施の推薦選抜から出願資格の改善（令和４年度末に公表済み）を実施している。

学部等名　経営情報工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/for-students/syllabus-3/）
（令和７年度学生便覧　専攻科の教育方針　P128）

（概要）
経営情報工学専攻では、経済社会と情報技術の発展に対応し得る高度な知識と技術を有するビジネスパーソンの育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214sendhip/）

（概要）【様式第２号の３（３）４再掲）】
・修了の認定に関する方針の具体的な内容
各専攻の高度な知識と技術を有するビジネスパーソンを育成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。
１．実践的なビジネスパーソンに必要な高度な科学的知識
２．ビジネス分野の専門先端技術・知識
３．“もの”をデザインできる力
４．自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力
５．リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力
・修了の認定に関する方針の適切な実施状況
あらかじめ定められた一般科目、専門基礎科目、専門科目の内訳にしたがって 62 単位以上修得した者について修了を認定している。
修了認定会議を開催し、その結果に基づき校長が修了を認定している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214senkari/）

（概要）
専攻科では、情報収集・解析・企画・立案および設計等に関する総合的能力を有し、“もの”を新たに創造できる開発型技術者・研究者・ビジネスパーソンを育成するために、専攻ごとに必要な科目を体系的に配置した教育課程を編成する。
１．実践的なビジネスパーソンに必要な高度な科学的知識の修得
２．ビジネス分野の専門先端技術・知識の修得
３．“もの”をデザインできる力の習得
４．論理的説明力および周囲との協調性の習得
５．リベラルアーツ、国際的素養及び自ら学ぶ力の習得
上記の教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/43402-2/20201214senado/）

（概要）
宇部工業高等専門学校は、Be human, be tough and be challenge-seeking.を教育理念に掲げ、創造力をそなえ「もの」づくりを得意とする人間性豊かな人材の育成を目指している。
求める学生像
・工学またはビジネス分野における総合的な基礎学力を身につけている人（知識・技能）
・論理的に考え、自らの研究について分かりやすく説明できる人（思考力・判断力・表現力）
・自ら目標を設定し継続的に研究を遂行している人（主体性）

・多様な価値観を受け入れ、相互に連携して活動できる人（多様性・協働性）
・高度な専門性および複合的な知識を活かし、「もの」づくりで社会に貢献したい人（意欲・適性）
　なお、入学者の受入れに関する方針に沿った入学生の確保および適切な定員管理のため継続的な議論を実施しており、令和６年度実施の推薦選抜から出願資格の改善（令和４年度末に公表済み）を実施している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/disclosure-3/172_disclosure/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
―	3 人	―					3 人
機械工学科	―	5 人	1 人	1 人	1 人	0 人	8 人
電気工学科	―	4 人	2 人	1 人	0 人	0 人	7 人
制御情報工学科	―	4 人	3 人	0 人	0 人	0 人	7 人
物質工学科	―	4 人	4 人	0 人	1 人	0 人	9 人
経営情報学科	―	5 人	2 人	0 人	2 人	0 人	9 人
一般科	―	9 人	7 人	4 人	0 人	0 人	20 人
生産システム工学専攻	―	14 人	7 人	1 人	0 人	5 人	27 人
物質工学専攻	―	8 人	6 人	0 人	1 人	4 人	19 人
経営情報工学専攻	―	9 人	3 人	0 人	2 人	3 人	17 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
2 人	27 人	27 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公　表　方　法　：　https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&districtId=06&affiliationId=6664000000

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
機械工学科	40 人	41 人	102.5%	200 人	200 人	100.0%	若干名	0 人
電気工学科	40 人	41 人	102.5%	200 人	210 人	105.0%	若干名	2 人
制御情報工学科	40 人	43 人	107.5%	200 人	214 人	107.0%	若干名	2 人
物質工学科	40 人	41 人	102.5%	200 人	211 人	105.5%	若干名	0 人
経営情報学科	40 人	42 人	105.0%	200 人	207 人	103.5%	若干名	0 人
合計	200 人	208 人	104.0%	1000 人	1042 人	104.2%	若干名	4 人
生産システム工学専攻	12 人	14 人	116.7%	24 人	31 人	129.2%	0 人	0 人
物質工学専攻	4 人	4 人	100.0%	8 人	11 人	137.5%	0 人	0 人
経営情報工学専攻	4 人	5 人	125.0%	8 人	11 人	137.5%	0 人	0 人
合計	20 人	23 人	115.0%	40 人	53 人	132.5%	0 人	0 人

（備考）

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
機械工学科	43 人 (100.0%)	9 人 (20.9%)	34 人 (79.1%)	0 人 (0.0%)
電気工学科	39 人 (100.0%)	7 人 (17.9%)	30 人 (76.9%)	2 人 (5.1%)
制御情報工学科	42 人 (100.0%)	7 人 (16.7%)	35 人 (83.3%)	0 人 (0.0%)
物質工学科	39 人 (100.0%)	12 人 (30.8%)	24 人 (61.5%)	3 人 (7.7%)
経営情報学科	41 人 (100.0%)	7 人 (17.1%)	34 人 (82.9%)	0 人 (0.0%)
合計	204 人 (100.0%)	42 人 (20.6%)	157 人 (77.0%)	5 人 (2.5%)
生産システム工学専攻	25 人 (100.0%)	7 人 (28.0%)	18 人 (72.0%)	0 人 (0.0%)
物質工学専攻	2 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	2 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)
経営情報工学専攻	5 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	5 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)
合計	32 人 (100.0%)	7 人 (21.9%)	25 人 (78.1%)	0 人 (0.0%)
（主な進学先・就職先）（任意記載事項）				
（備考）				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）【様式第２号の３（３）１再掲）】
各年度の 12～１月に、常勤教員および非常勤教員へシラバス作成を依頼する。シラバスは Web シラバスとして電子的に管理され、科目基礎情報、到達目標、到達目標に対応したルーブリック、教育方法（科目の概要、授業の進め方と授業内容・方法、注意点から構成される）、授業計画（各回の授業内容および回ごとの到達目標を含む）および評価割合から構成される。
最終的に教務関係教職員のチェックを経て、Web 上で公表される。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）【様式第２号の３（３）２、４再掲）】
・学修の成果に係る評価
カリキュラム・ポリシーに定める成績評価方法に関する方針に沿って、シラバスに記載された評価割合に基づき授業科目の評価を行う。卒業研究、実習・演習系科目を除く科目においては、定期試験、レポート、小テストの評価を基に厳正かつ適正な評価を行っており、総合評価は 100 点法で点数化した上で、「宇部工業高等専門学校教務規則」に基づき、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可の標語を適用する。学年成績が 60 点未満、または各科目において欠課時数が年間授業時数の３分の１を超える科目を不合格とし未修得とする。

・卒業又は修了の認定に当たっての基準
（本科）
・卒業の認定に関する方針の具体的な内容
各学科の知識と技術を有する実践的技術者／ビジネスパーソンを育成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。
１．実践的技術者／ビジネスパーソンに必要な科学的基礎知識
２．工学的／ビジネス分野の専門基盤知識
３．社会実装に応用・実践できる力
４．自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力
５．リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力
・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況
あらかじめ定められた一般科目、専門科目の内訳にしたがって 167 単位以上修得した者について卒業を認定している。
卒業認定会議を開催し、その結果に基づき校長が卒業を認定している。
（専攻科）
・修了の認定に関する方針の具体的な内容
各専攻の高度な知識と技術を有する実践的技術者／ビジネスパーソンを育成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。
１．実践的技術者／ビジネスパーソンに必要な高度な科学的知識
２．工学的／ビジネス分野の専門先端技術・知識
３．“もの”をデザインできる力
４．自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力
５．リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力
・修了の認定に関する方針の適切な実施状況
あらかじめ定められた一般科目、専門基礎科目、専門科目の内訳にしたがって 62 単位以上修得した者について修了を認定している。
修了認定会議を開催し、その結果に基づき校長が修了を認定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）

	機械工学科	167 単位	有・(無)	単位
	電気工学科	167 単位	有・(無)	単位
	制御情報工学科	167 単位	有・(無)	単位
	物質工学科	167 単位	有・(無)	単位
	経営情報学科	167 単位	有・(無)	単位
	生産システム工学専攻	62 単位	有・(無)	単位
	物質工学専攻	62 単位	有・(無)	単位
	経営情報工学専攻	62 単位	有・(無)	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/disclosure-3/172_disclosure/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	103,021 円～ 225,521 円	学生傷害保険掛金 4,050 円 TOEIC Bridge 受験料 2,200 円 PROG 受験料 2,600 円 教科書代 29,971 円 教材費 64,200 円～65,300 円 入寮金 1,000 円（寮生のみ） 寄宿料 8,400 円（寮生のみ） 寮費（共益費）107,800 円（寮生のみ） 寮生会費 2,000 円（寮生のみ） 寮内上履き 2,200 円（寮生のみ）
	電気工学科	234,600 円	84,600 円	66,099 円～ 187,499 円	学生傷害保険掛金 4,050 円 TOEIC Bridge 受験料 2,200 円 PROG 受験料 2,600 円 教科書代 31,149 円 教材費 26,100 円 入寮金 1,000 円（寮生のみ） 寄宿料 8,400 円（寮生のみ） 寮費（共益費）107,800 円（寮生のみ） 寮生会費 2,000 円（寮生のみ） 寮内上履き 2,200 円（寮生のみ）
	制御情報工学科	234,600 円	84,600 円	34,950 円～ 156,350 円	学生傷害保険掛金 4,050 円 TOEIC Bridge 受験料 2,200 円 PROG 受験料 2,600 円 教科書代 29,477 円 教材費 26,100 円 入寮金 1,000 円（寮生のみ） 寄宿料 8,400 円（寮生のみ） 寮費（共益費）107,800 円（寮生のみ） 寮生会費 2,000 円（寮生の

					み) 寮内上履き 2,200 円（寮生のみ)
	物質工学科	234,600 円	84,600 円	41,700 円～ 163,100 円	学生傷害保険掛金 4,050 円 TOEIC Bridge 受験料 2,200 円 PROG 受験料 2,600 円 教科書代 28,189 円 教材費 32,850 円 入寮金 1,000 円（寮生のみ) 寄宿料 8,400 円（寮生のみ) 寮費（共益費）107,800 円（寮生のみ) 寮生会費 2,000 円（寮生のみ) 寮内上履き 2,200 円（寮生のみ)
	経営情報学科	234,600 円	84,600 円	37,050 円～ 158,450 円	学生傷害保険掛金 4,050 円 TOEIC Bridge 受験料 2,200 円 PROG 受験料 2,600 円 教科書代 29,038 円 教材費 28,200 円 入寮金 1,000 円（寮生のみ) 寄宿料 8,400 円（寮生のみ) 寮費（共益費）107,800 円（寮生のみ) 寮生会費 2,000 円（寮生のみ) 寮内上履き 2,200 円（寮生のみ)
	生産システム工学専攻	234,600 円	84,600 円	5,204 円～ 137,604 円	学生傷害保険掛金 1,750 円 教科書代 3,454 円 入寮金 1,000 円（寮生のみ) 寄宿料 8,400 円～9,600 円（寮生のみ) 寮費（共益費）107,800 円（寮生のみ) 寮生会費 2,000 円（寮生のみ) 寮内上履き 2,200 円（寮生のみ)

	物質工学専攻	234,600 円	84,600 円	5,204 円～137,604 円	学生傷害保険掛金 1,750 円 教科書代 3,454 円 入寮金 1,000 円（寮生のみ） 寄宿料 8,400 円～9,600 円（寮生のみ） 寮費（共益費）107,800 円（寮生のみ） 寮生会費 2,000 円（寮生のみ） 寮内上履き 2,200 円（寮生のみ）
	経営情報工学専攻	234,600 円	84,600 円	8,174 円～140,574 円	学生傷害保険掛金 1,750 円 教科書代 6,424 円 入寮金 1,000 円（寮生のみ） 寄宿料 8,400 円～9,600 円（寮生のみ） 寮費（共益費）107,800 円（寮生のみ） 寮生会費 2,000 円（寮生のみ） 寮内上履き 2,200 円（寮生のみ）

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 修学支援室は、学修する上で困難を抱える学生に修学上のサポートを具体的に計画する。学生それぞれの状況に応じたサポートチームを編成して、具体的な配慮等を検討し支援にあたる。 日本学生支援機の構給付奨学金の採用候補者である４年次編入学者又は専攻科入学者に対し、入学金及び前期授業料等の徴収を入学後奨学生として正式に決定するまで猶予している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） キャリア支援室は、学生の就職・進学の活動を支援するため以下の業務を行っている。 ・就職・入学試験情報、募集要項の収集 ・就職、進学活動をしている学生への各学科の担当教員によるサポート ・企業・大学説明会の実施 ・実際に就職する前に学生自身で就業体験を行うためのインターンシップのサポート ・キャリアデザイン構築のための基礎知識を習得することを目指した、低学年を対象とした導入教育（キャリア）の実施 ・県外に就職した本校の卒業生の地元への再就職を支援する、U ターン求人・求職システムの運用
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
学生相談室は、学生一人一人が安心して学生生活を送れるようにサポートを行う。学生相談室員（教員・看護師）や専門のカウンセリングスタッフ（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・キャリアカウンセラー・精神科医）が、それぞれの学生の悩みや不安、心配事に応じて、問題解決の糸口を見つけるための支援を行う。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.ube-k.ac.jp/about/disclosure-3/

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	G135110110212
学校名（○○大学 等）	宇部工業高等専門学校
設置者名（学校法人○○学園 等）	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		66人（　　）人	64人（　　）人	－（　　）人
内訳	第Ⅰ区分	26人	28人	
	（うち多子世帯）	（　　人）	（　　人）	
	第Ⅱ区分	－	17人	
	（うち多子世帯）	（　　人）	（　　人）	
	第Ⅲ区分	20人	－	
	（うち多子世帯）	（　　人）	（　　人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	人		
家計急変による 支援対象者（年間）				－（　　）人
合計（年間）				69人（　　）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	－
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	－	0人
計	人	－	－
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	人	0人	－

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当）	人	0人	0人
ＧＰＡ等が下位４分の１	人	15人	－
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	15人	－
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。